

令和7年度社会教育委員会 第1回定例会 次第

日時: 令和7年7月8日(火) 午後7時から

場所: 東御市中央公民館 2階 第7学習室

1 開会

2 社会教育委員議長あいさつ

3 会議事項

(1) 文書館運営委員の選出について(報告)

・富岡茂樹さん(任期: 令和7年3月1日～令和9年2月 28 日)

(2) 令和7年度 上小社会教育委員連絡協議会事業計画について……………3ページ

(3) 生涯学習講座及び社会教育団体について……………4ページ

・令和7年度生涯学習講座の開講状況と社会教育団体設立状況

(4) 今後の活動について……………5ページ

4 その他

・令和7年度各種団体親睦球技大会について……………6ページ

※令和8年度当番: 社会教育委員会

5 閉会

東御市社会教育委員名簿

(任期 令和6年7月1日～令和10年6月30日)

氏 名	備 考
富岡 茂樹	和地区
大村 裕子	滋野地区
柳澤 秀樹	田中地区
戸堀 恵二	祢津地区
塩川 壽友	祢津地区
関 桂子	和地区
岡田 佳澄	北御牧地区
後藤 富美男	滋野地区
小林 俊一	祢津地区
盛野 憲俊	東部中学校長

(事務局)

中村 昌彦	企画振興部長
柳 橋 智	地域づくり支援課長
中澤 公哉	地域コミュニティ推進係長
西牧 さくら	地域コミュニティ推進係

令和 7 年度 上小社会教育委員連絡協議会事業計画

期日	会議名等	会場	内容	対象者
4月8日	上小社会教育委員連絡協議会第 1 回理事会	東御市中央公民館	○事業計画・予算案の検討 ○総会・地区研修会の役割 分担・準備	議長
5月29日	上小社会教育委員連絡協議会第 2 回理事会	東御市中央公民館	○総会・地区研修会準備	議長
	上小社会教育委員連絡協議会総会・地区研修会	東御市中央公民館	○総会 ○現地研修	全員
6月19日	県社会教育委員連絡協議会・総会	オンライン会議	○総会	議長
9月8日	県社会教育研究大会	長野県総合教育センター	○長野県社会教育委員連絡 協議会表彰（ 東御市より表 彰者4名 ） ○分科会発表（立科町）	全員
10月2日	子どもが育つ地域共育フォーラム兼佐久地区・ 上小地区社会教育委員連絡協議会合同研修会	長野大学 リプロホール	○講演 門川大作（元京都市 長） ○分科会テーマ 1 宮原明人（子どもメディ ア信州副理事長） 2 SSW（東信教育事務所） 3 上蘭美千代（一般社団法 人 SanyTOMI クラブマネージャー）	全員
10月30日 ～31日	第67回全国社会教育研究大会岩手大会	岩手県・盛岡市	岩手県盛岡市にて	希望者
11月20日 ～21日	第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大 会	神奈川県・横浜市	神奈川県横浜市にて	
11月25日	上小社会教育委員連絡協議会第 3 回理事会	上田市役所	○事業反省、来年度の日程、 会報、活動情報誌	議長
1月30日	上小社会教育委員連絡協議会第 4 回理事会	青木村文化会館	○来年度の事業計画案	議長

令和7年度生涯学習講座の開講状況と社会教育団体設立状況

地域づくり支援課地域コミュニティ推進係

1 令和7年度生涯学習講座の開講数等 募集講座数 102 (R6: 109)

		開講講座数	不開講講座数	不開講講座のうち社会教育団として設立	講座として成立（生涯学習＋社会教育団体 他）
中央	親子	3（含：2講座を統合）	1	1	3
	一般	34（含：2講座を統合）	14	8+1（文化協会へ）	42
滋野		9	10	6+1（文化協会へ）	16
祢津	親子	0.5（北御牧と合同）	1	0	0.5
	一般	4	4	3	7
和		10	4	2	12
北御牧	親子	0.5（祢津と合同）	1	0	0.5
	一般	5	1	0	5
合計（数）		66（79）	36（30）	20+2（0）	88（79）
成立割合（％）		64.7（72.5）	35.3（27.5）	21.6（0）	86.2（72.5）

*受講者の人数は集計中です

2 不開講となった申込者への対応

（1）不開講講座の講師および受講生に不開講通知に加えて社会教育団体および公民館サロン利用の案内を送付

→講師だけでなく受講生にも生涯学習講座と社会教育団体の違いと、社会教育団体のメリットを周知し、希望があった場合は、①設立のための会合の設定（会の進行もサポート）②申請書の作成支援③会場場所の予約（今年度は全て仮予約済）など可能な範囲で館長も立ち会いながら担当者が丁寧に支援した。

（2）4名以下の26講座の申込者にも、公民館サロン（月1回中央公民館で活動の場を使用料減免で提供）の利用を提案した。

3 現在の状況 申込者の86.2%に活動の道が開けた（昨年は72.5%）

（1）募集終了後の社会教育団体候補18講座全てが団体として成立し、活動できることとなった。さらに、締め切り後に希望者が集まったということで、さらに2講座が新たに設立された。また、この他2講座が文化協会の既成団体と合同で活動することになった。

（2）最終的に成立講座66講座（内2講座は統合）と社会教育団体等として活動する22講座を合わせると88講座（86.2%）となり、昨年度の79講座（72.5%）を大きく上回る割合で申込者が活動できることになった。

4 社会教育団体への今後の支援

（1）生涯学習講座修了後の受け皿（自主運営組織）として、組織や活動の在り方を改革していく。

①代表者会の設立と運営

②活動の成果を発表する場の設定（生涯学習講座作品発表会との共催）

③会員募集の支援（2月に生涯学習講座募集と併せて行う予定）

（2）東御市文化協会への接続や連携について協議していく。

5 令和8年度末対応……新制度（令和6年度スタート）が始まってからの受講者が3年間の受講を修了する。

社会教育委員の取組

上田市	公民館運営協議会に参加。使用料等の検討。上田市の事業計画を社協委に報告
青木村	村の様々な会議に参加いただいている。 事業等についてご意見をいただいている
長和町	公民館の運営について説明をさせてもらっている。 以前は教育委員会との情報交換の買いがあったが今は行っていない。 教育長より研究課題の提案がありそれをふまえた研究をしていただけるよう提案している。
小諸市	連絡会：過去からの未解決事案がありどうするかを検討中。（小諸市の伝統芸能、横の連帯作りをどうとりもつか） 個人研究：家庭教育について調査・研究をした委員がいる。（子どもの居場所について課題感をお持ち）社会教育としてどう手を入れていくことができるか今後の課題。
佐久市	居場所をテーマに意見交換。CSや不登校児の居場所など。CSについてはコーディネーターの方々が意見交換ができる場をつくった。不登校児については相談窓口の整理を行う。教育委員と社会教育委員の交流の場をつくっていきたい
佐久穂町	公民館運営審議会に参加いただいている。
川上村	公民館との兼務
南牧村	活動はどこから始めたらいいか悩みはある。今年度は義務教育学校の設立に向けて動いている。CSの人材バンク等社会教育委員にはご協力いただいている
南相木村	社会教育委員が当て職になっている。大きな活動は行っていない。親子留学自然伝統文化に興味を持って参加していただく家庭がある中、教える方が少なくなってきた。そういった面でパイプ役となっていたけるとありがたい
北相木村	村の公民館活動を報告。施設等の既存の在り方について検討いただいている。
軽井沢町	年間事業計画報告とうで簡単な会議に参加いただいている。昨年度はワークショップ等を行い軽井沢町の課題の洗い出しを行った。 社会教育に関する発信の方法を見直している。HP・レポートの提出等を行っている。
御代田町	CSが信州型から国型に移行した。社会教育委員も委員として参加している。国型の特徴を生かし学校長のビジョン党委員が性にすることで特色ある活動が行われている。コミュニティルームも設立している。地域の方々の居場所にもなりつつある。新しい戦線方が地域のことを学ぶ場にもなっている。
立科町	CSに社会教育委員が関わっている。学校の体制によって深まりには差が出ている。関わって行かれるのり代を厚くしていく必要がある。社会教育委員と公民館の連携。互いに相談していかれる組織づくりが必要。文化面の活動をどう支えていくかが今後の課題。

スクール（信州型・国型含む）

帰ってきたいと考える人づくり・
まちづくりのための施策について
の提言書

平成 24 年 5 月 29 日

東御市社会教育委員会議

目 次

1	はじめに	・ ・ ・ ・	1
2	アンケートの実施による現状分析	・ ・ ・ ・	3
3	先進地視察（飯田市）による現状分析	・ ・ ・ ・	6
4	現状と課題	・ ・ ・ ・	7
5	提言	・ ・ ・ ・	1 1
6	資料	・ ・ ・ ・	1 5

1 はじめに

私たち社会教育委員会では、平成 21 年度より、「何かひとつテーマを決めて研究し、その成果として市への提言に結びつけて行こう」という委員全員の意思により、提言につなげていく課題を考え、その調査研究の中から、東御市について、子どもについて、地域について、次のような意見が出されました。

- 今、日本中で抱える問題が東御市でも深刻な問題になっていないだろうか。特に地域の問題として、子どもたちが学校を卒業したあと、生活の場として故郷へ戻ってくる環境が整っているだろうか。
- 合併後、旧東部町と旧北御牧村の間に教育、地域など様々な視点において、不都合、不便は生じていないだろうか。
- 今ある東御市の自然や環境の良さを、市民一人ひとり肌で感じ、大切にし、この地域に愛着を持ってもらえているだろうか。
- 東日本大震災以降、地域コミュニティーの重要性が再認識されている中で、東御市では市民が寄り添い、より良い東御市を個人、家庭の小さな単位から、公民館、地域などの広い単位でとらえて、活動できているだろうか。

これらの意見から、「帰ってきたいと考えるひとづくり、まちづくりのための施策について」という研究テーマを決定しました。

この研究テーマについて、ワークショップなどを通じて様々な意見を出し合い、「教育」「自然環境」「人とのかかわり」の3つのサブテーマに絞り込み、それぞれの提言をまとめました。

2 アンケートの実施による現状分析

東御市は重点施策として、「3.5 万人から 4 万人が暮らすまちづくり」を目指していますが、人口推移をみると、横ばいまたは微減少という状況にあります。

特に若者の減少が著しく、今後の少子高齢化社会を迎えるにあたり、若者の実態を知るため、平成 22 年度の成人式においてアンケートを実施し、考察を加えました。

○ 250 人の出席者に対して 149 人の回答を得ました。

(回答率 60%)

○ 職業別では、学生 80%、社会人 10%、その他 10%

○ 「将来東御市に住みたいですか」との問いには、

はい 67%、いいえ 33%

○ 理由「はいの回答」

・ 家族や友達がいる	34%
・ 故郷だから	30%
・ 環境がよい	20%
・ 子育てがしやすい	7%
・ その他	9%

「いいえの回答」

・働く場所がない	33%
・市内に住む理由がない	17%
・交通や買い物が不便	17%
・レジャー施設がない	8%
・人付き合いが面倒	6%
・その他	19%

以上のような結果が得られました。

この中で、「いいえ」と答えた理由に、「働く場所がない」などのハード面のほかに、「市内に住む理由がない」「人づきあいが面倒」などが多くを占めています。その反面、「家族や友人がいるから」「故郷だから」を「はい」と答えた理由としている人も多くいます。

これらのことを合せて考えると家庭はもちろん、地域や学校、市などと深く関わり、個として大切に育てられ、自分の居場所をこの地で見つけることができた子どもたちは、この東御市に愛着を持ち「ふるさと」に対する特別な思いを持って「帰って来よう」「この地に住みたい」と考えてくれるのではないかと思います。

しかし、小学校時代にくらべて、中学、高校と多忙で多感な時期

は、地域の行事や伝統文化、自然環境などにふれる機会が極端に減り、地域や近所への興味や関わりも同じように少なくなり、いつの間にかどこに住んでも同じという思いを持つようになってしまうのではないかと考えられます。

3 先進地視察（飯田市）による現状分析

「どうしたら飯田市から出て行った人材に戻ってきてもらえるか」

飯田市は、継続可能な文化経済自立都市をスローガンに、三つの柱を推進しています。

- 地域づくり（住みたいと感じる地域づくり／自治条例、環境プラン等）
- 産業づくり（帰ってこられる産業づくり／企業誘致、人材誘致、地域内産業の連携）
- 人づくり（帰ってきたいと考える人づくり／地育力向上連携システム推進計画）

以上の飯田市の取り組みを視察した中で、東御市においても「帰ってきたいと考える人づくり・まちづくり」の取り組みを進めていくことが必要でないかと考えられます。

4 現状と課題

「教育」

- 1 小学校は、現状では不登校はゼロに近い状況である。一方で発達障がいの子供が少なくないが、東御市は市費で支援員等を配置して、かなり手厚い支援を行っている。地域で子どもを育てるといふ市政（姿勢）の表れである。
- 2 地域で子どもを育てる姿、生き方を学ぶ姿がある。
 - （1） 東部中学校では、2年生が職場体験学習（2日間）を行い、東御市内にどんな職場があるか等を知る貴重な学習の場となっている。
 - （2） 北御牧中学校では、家族参観日（キャリア学習）や生き方体験学習（職場見学・地域に住む高齢者との交流等）を行っている。
 - （3） 旧北御牧地区には、以前からの地域との関わりが残っており、地区公民館主催の事業等に計画の段階から子どもたちが関わるができる場が多くある。
- 3 中学校の規模の差が大きい。
 - （1） 東部中学校は、生徒数が多いため部活動等が活発で、生徒が

いきいきと活動する場がある。反面、生徒一人ひとりへの対応が難しい状況もある。

(2) 北御牧中学校は、少人数で細かいところまで目が行き届く良さがある。反面、北御牧小学校の児童がそのまま進学してくるので、学習面や人間関係で小学校の延長に近いような状況もある。

(3) 中学校の選択制を実施してほしいという声も一部にはある。

「自然環境」

- 1 東御市には湯の丸高原をはじめ、池の平湿原、芸術むら公園など、他県の子どもたちが多数訪れて、体験学習ができる素晴らしい自然環境がある。
- 2 東御市内の自然を活かした、四季を通じての自然環境体験学習が、少ないようにおもわれる。特に池の平湿原などは、首都圏の生徒が多く利用しているが、東御市の子どもたちの利用が少ないと感じている。
- 3 東御市には恵まれた自然環境があるが、施設の老朽化等により活かしきれていない。

「人とのかかわり」

- 1 テレビゲーム、マスメディアの情報が多く、メディア社会に引き込まれ、人と人との交流が希薄になっていると思われる。
- 2 子どもたちが地域社会に出て活躍する場や人とのふれあいが少ない状況である。イベントや行事の実施に関しては、大人たちが主体になり、子どもたちの自主性や達成感が損なわれていると思われる。
- 3 伝統文化や地域行事などの継承が時代とともに薄れてきていると思われる。
- 4 ~~イベントや行事の実施に関しては、大人たちが主体になり、子どもたちの自主性が損なわれていると思われる。~~
- ~~5~~ 子どもたちが参画できる市の情報や、自身が知りたい、また子どもたちに知ってほしい市のお知らせなどの情報伝達の手法、手段が少ない。
- ~~6~~ 5 将来を心底から考える、世代をつなぐ企画力を持った地域リーダーとなる「コーディネーター」が見当たらないを発掘し、育成する必要がある。

5 提 言

「教育」

教育においては、各小学校、中学校での体験学習などの地域をよく知る活動などをますます充実させていただくとともに、子どもたちを取りまく地域の方々とのコミュニケーション、関わりを大切にできるような体験をつめる場をもつことは、幼い頃の楽しかった記憶を大人になっても心に残すはずであり、地域に帰ってくる一つのきっかけになりうる。

- 1 今後も、市として、教育に関して手厚い支援を続けてほしい。

「地域で子どもを育てる東御市」というイメージを定着させていくことが、帰ってきたいと考えることにつながっていく。

~~2 学区を変更することは賛否両論があるので、それぞれの特徴を最大限に発揮できるような整備（東部中：スポーツ等 北御牧中：小中一貫教育等）を行う必要がある。~~

2 小中学生が、東御市を心と体で感じ取って成長していくために、地域の行事に参加し地域の人々と関わりを持つ必要があり、地域や地域の人を知るチャンス（機会）増やすことが大切である。例えば、市長をはじめとした地域の先輩達が先生となる

授業を行い、子どもたちが知らなかった東御市のことを知る場を持つことができる。

東部中学校の職場体験学習や、北御牧中学校のキャリア学習や生き方体験学習等の継続と充実を図る必要がある。

- 3 東日本大震災を遠方ながら、募金等で関わってきた子ども達は、各種媒体を通じて報じられる報道を見聞きすることにより、以前よりも地域に対する気持ちの持ち方が変化してきているはずである。この時期に、災害時における地域コミュニティの役割、こどもたちの役割を継続的に授業で教えていただくことが重要であり、そうした活動を通じて地域の方々との関わりを持たせる必要がある。

~~4 小中学生が、東御市を体全体で感じ取って成長していくために、地域の行事に参加し地域の人々と関わりを持つ必要がある。子どもの頃に感じた楽しさや喜びは、大人になっても心に残っているはずであり、地域に帰ってくるきっかけになりうる。~~

~~また、地域や地域の人を知るチャンス（機会）を増やすことも大切である。例えば、市長をはじめとした地域の先輩達が先生となって授業を行い、子どもたちが知らなかった東御市のこ~~

~~とを知る場を持ちたい。~~

~~—— 東部中学校の職場体験や、北御牧中学校の諸活動の継続と充
実を期待したい。~~

4 学区を変更することは賛否両論があるので、それぞれの特徴を
最大限に発揮できるような整備（東部中：スポーツ等 北御牧
中：小中一貫教育等）を行う必要がある。

「自然環境」

子ども達が将来東御市に帰ってきてもらうきたいと思うためには、子ども時代に東御市の豊かな自然環境を体験させし、知識を深めることが大切だと考える。

しかし、現在の、東御市市のホームページや冊子が大人向けであり、子ども向けのものがないので、子どもたちにとってわかりにくく、利用しにくいことが、自然環境を体験しにくいひとつの要因であると考えられる。そのことから、子どもたちが見てわかる子ども向けの冊子や資料（下記4項目）を作成し、教育現場での活用など、それらの有効な利用を促進する必要がある。

1東御市・市のホームページ内に子ども向けのサイトの新設。

2・ 市や地域で行っている子どもたちの行事、イベントの年間スケジュールや内容をまとめた資料の作成

3・ 地域ごとの史跡や伝説、伝統行事のわかりやすい資料の作成

4・ 子ども向けの観光地や観光資源の資料

5子ども向けの、市の特産品の資料の作成

「人とのかかわり」

アンケート結果に見られる「市内に住む理由がない」ことが大きな問題であり、市内に住みたくなるような魅力あふれる学校生活、地域活動、行政及び家庭づくりがソフトの面では重要な課題であると考えます。

- 1 若者や子どもたちが企画・製作・実行に参画できるイベントや行事の考案。またそれをコーディネートできる企画力を持つ人材の発掘と育成を図る。
- 2 子どもたちが「まちづくり」に参画できる学習の場を設ける。
- 3 「子ども広報誌（仮称）」または「東御市子ども新聞（仮称）」、「FM とうみ子ども局（仮称）」を大人と一緒に子どもたちで作成する。
- 4 若者たちが心を開いた開き希望のもてるコミュニケーションができる居場所づくりの為に公民館などの活用を図る。